

**令和4年度（2022年度）第2回北海道総合保健医療協議会地域保健専門委員会
糖尿病対策小委員会（第1回慢性腎臓病対策連絡会議）議事録**

日 時：令和5年（2023年）3月16日（木）18:00～18:45

開催形式：ZoomによるWeb開催

- 議 題：1 北海道における透析患者の状況について
2 啓発事業について
3 糖尿病重症化予防（慢性腎臓病）対策実施状況について

1 あいさつ（事務局 佐藤がん対策等担当課長）

本日は、お忙しい中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。また、委員の皆様には、日頃から、本道の保健医療福祉行政の推進に格別のご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年9月には、糖尿病対策小委員会を書面にて開催し、北海道医療計画の進捗状況及び評価についてご審議いただきました。委員の皆様には、改めて感謝申し上げます。

道においては、糖尿病連携手帳を用いた地域連携クリティカルパスの活用など、医療連携体制の充実に努めるとともに、関係団体等のご協力のもと、世界腎臓デーに合わせた啓発パネル展や慢性腎臓病住民講演会の継続開催により、疾病予防・重症化予防の普及啓発を行ってきているところです。

本日の連絡会議及び委員会では、委員の皆様と本道の現状などについて、一つひとつ共通認識を図りながら、有意義な会議としていきたいと考えております。

慢性腎臓病対策、糖尿病の医療連携が、より効果的に推進されるよう、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではありますが、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願い致します。

2 委員紹介 出欠状況（事務局）

本日、北海道医師会藤原委員、札幌医科大学齋藤委員、北海道糖尿病協会相馬委員が都合により欠席のご報告をいただいております。なお、今年度から、北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室中村委員、手稲溪仁会病院茂庭委員、北海道大学大学院医学研究院循環病態内科学教室永井委員が新たに委員になっていただいております。

3 議事（報告事項）

○奥村委員長

本日は、報告事項としまして、北海道における透析患者の状況について、啓発事業について、糖尿病重症化予防（慢性腎臓病）対策実施状況についての3点です。委員の皆様には、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見をいただきますようお願いします。早速、議事に入りたくと存じます。北海道における透析患者の状況について事務局から説明願います。

○事務局

北海道における透析導入患者状況について説明いたします。初めに資料1-1をご覧ください。この資料は、日本透析医学会が調査しているわが国の慢性透析療法の現況の北海道分のデータを提供していただき、作成した資料です。本会議での情報共有を目的に提供していただいております。他の用途での使用を禁止されていますので、取扱にご留意いただきますようお願いいたします。

令和3年の北海道の透析導入患者は1,650人で、患者数は平成29年をピークに減少しています。令

和3年末の透析患者数は15,124人、平均年齢は69.3歳でした。患者数は横ばい、平均年齢は上昇しています。令和3年の透析導入患者の原疾患は、糖尿病性腎症が最も多く40.1%。続いて腎硬化症で19.1%、慢性糸球体腎炎12.7%となっています。糖尿病性腎症を経年でみると、患者数は、平成30年をピークに減少傾向となっています。令和3年末の透析患者の原疾患は、糖尿病性腎症が一番多く40.4%。続いて慢性糸球体腎炎で23.0%、腎硬化症13.5%となっています。

続きまして、資料1-2をご覧ください。この調査は、当課の難病対策係が年に1回実施している透析医療の現況調査のデータをもとに作成した資料です。資料は、令和3年12月1日現在のデータとなっています。1枚目は、圏域ごとの患者数となっております。続いて2枚目ですが、この資料は、医療機関所在地別の透析患者の居住地状況についてまとめています。北渡島檜山は近隣の圏域に通院している患者がやや多い状況ですが、他の圏域は、8割以上が居住地の圏域と同じ圏域にある医療機関に通院しています。

○奥村委員長

ただいまの報告事項につきまして、委員の方から質問・ご意見等ありましたらお願いします。

○松永委員（北海道腎臓病患者連絡協議会）

資料1-2について、1年以内の新規透析導入患者数と標記がありますが、1年間ほどの範囲でしょうか。

○事務局

調査時点が、令和3年12月1日現在のため、そこから遡り1年となるため、令和2年12月1日～令和3年12月1日となります。

○奥村委員長

コロナの3年間で北海道における透析医療について何か変化があったかどうか、この資料から読み取れることはあるでしょうか。

○事務局

この資料からは読み取れませんが、日本透析医学会が調査したわが国の慢性透析療法の現況における全国的な状況としては、令和3年の死亡患者数が増加しており、新型コロナウイルスの感染や医療環境の変化が影響した可能性があるとしてされています。

○奥村委員長

引き続き、啓発事業について、事務局から説明願います。

○事務局

令和4年度慢性腎臓病住民講演会実施結果について報告いたします。資料2をご覧ください。本講演会は、一般住民への慢性腎臓病に関する普及啓発のため年に1～2回道内各地で開催しています。今年度は、全道から多くの方へ出席いただけるよう2月3日に札幌市内での集合開催と1ヶ月のオンデマンド配信を行いました。講師は、本会委員である齋藤先生及び西尾先生のお二方をお願いし、糖尿病や慢性腎臓病の基礎知識、発症予防や重症化予防のための健康管理等について大変わかりやすくご講演いただきました。

申込み状況ですが、申込みは297名で、そのうち9割程度にあたる261名がオンデマンド配信の申込みであり、年代は、20代～80代以上の幅広い世代、居住地は全道各地から申込みがありました。会場の申込みは、ほとんどが札幌近郊からでした。参加者ですが、会場参加26名、オンデマンド配信の視聴回数は388回でした。

結果については、講演会の満足度ですが、「大変満足」「やや満足」合わせて59名で回答者の9割以上であり、満足度が高く、感想では、「健康診断の結果を見ながら講演会を聞かせていただき、数値の見

方がよくわかった」「具体的な身体の中の状態をイメージすることで、自身の身体で起こっている事だと感じやすく、わかりやすかった」「CKDの重症度を調べる方法がわかってよかった」等の声が聞かれ、慢性腎臓病と糖尿病の理解を深め、発症及び重症化予防のための健康管理について考える機会になったと考えております。次年度については、道立保健所に希望を聞き取り、希望する圏域でWebを併用した講演会の開催を検討しています。

続きまして、世界腎臓デー啓発パネル展の実施結果について、ご報告いたします。資料3をご覧ください。3月第2木曜日の世界腎臓デーの日にあわせ、3月9日（木）に札幌地下歩行空間で、実施いたしました。実施内容ですが、昨年度に引き続き、腎臓病に関するパネル、ポスターの展示、啓発物品の配付を行いました。個別相談会は、従事者にもあります北海道透析看護認定看護師会が、今年度から新たに共催となり、10名の方へ個別相談を行いました。開催状況及び結果ですが、イベント参加者は200名程度でした。札幌駅前通地下歩行空間としたことから、通りがかりで足を止めた方が多く、健康な方、10代～100歳代と幅広く普及啓発ができました。今年度、初めて北海道透析看護認定看護師会も同日、同スペースで実施し、症状の説明や減塩などの予防方法の指導等を行いました。

来場者にアンケートも実施し、160名の方にご回答いただきました。アンケート結果から、普段健康に気をつけていますかとの問いには、約9割の方が気をつけていると回答があり、中でも多かったのが、減塩と運動でした。また、慢性腎臓病（CKD）を知っているかとの問いには、5割が知っているのご回答いただきました。なお、昨年度は約3割が知っているとの回答でした。パネル展で、腎臓病について考えるきっかけになったかについては、約9割の方は腎臓病について考えるきっかけになったのご回答いただきました。次年度についても、引き続き世界腎臓デー啓発パネル展を実施していきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

○奥村委員長

ただいまの報告事項につきまして、委員の方から質問・ご意見等ありましたらお願いします。

慢性腎臓病住民講演会をオンデマンドにしたということは、一般住民にとっては、理想的なのかなと思いますが、コロナ以前と比べて、オンデマンドにしてからはどのように参加者が増えましたか。

○事務局

令和3年度は、Webでのライブ配信とし、79名の参加がありました。令和元年度より前は、各圏域で年に1～2カ所集合形式で開催しておりましたが、毎年、60名前後の参加でした。オンデマンドにしたことで参加者の増加につながりました。

○奥村委員長

今後も、参加者の人数等も踏まえて、開催方法を検討していただければと思います。

○茂庭委員（手稲溪仁会病院）

オンデマンドで聴講者が増えたということでしたけど、コストは、どのくらい増えたのでしょうか。

○事務局

業者に依頼したため、15万円程度増加しております。

○奥村委員長

引き続き、糖尿病重症化予防（慢性腎臓病）対策実施状況について、各団体からご報告いただきます。まずは、北海道での実施状況について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

北海道の実施状況につきまして説明いたします、資料4-1をご覧ください。世界腎臓デーの普及に関しましては、先ほどご報告しました資料3のとおりです。一般住民等を対象とする普及啓発事業といたしましては、先ほどご報告しました資料2のとおりです。保健・医療関係者等を対象とする研修会で

すが、二次医療圏毎に開催しており、令和3年度は6圏域で実施しました。今年度につきましても各圏域で実施しています。

○奥村委員長

北海道糖尿病協会ですが、本日欠席のため、後ほど資料をご覧ください。続いて、北海道腎臓病患者連絡協議会から報告をお願いします。

○松永委員（北海道腎臓病患者連絡協議会）

世界腎臓デー啓発パネル展につきましても、道との共催で行っています。

一般住民等を対象とする普及啓発事業につきましても、CKD 市民公開シンポジウムを行っていますが、コロナの関係で、対面での開催が難しくなっております。地域に16の地方腎友会がありますが、この内の苫小牧腎友会が、市と共催でiPS講演会を開催し、この中で、iPSを使った腎臓再生から移植という話もしていただきました。

保健・医療関係者等を対象とする学習会ですが、透析ケアというのが、市立札幌大学で講座があり、そこに招かれて、今年度も対面で、24名の学生に、腎代替療法の経験者としての体験談を話してきました。これは、来年度も継続する予定です。

その他で、活動の紹介をしておりますので、ご覧いただきたいと思います。ぜひ、こういった活動に参加していただける方がいると嬉しく思います。

○奥村委員長

続きまして、当別町から報告をお願いします。

○土井委員（当別町）

当別町の概要としまして、令和3年度の状況を記載しております。毎年当別町では、特定健診は50%以上の受診率を確保してまいり、保健指導も60%以上を毎年実施している状況です。

腎機能障害による更生医療該当者の名簿をもとに、毎年1回透析患者の推移を集計しており、少しずつ増加している状況です。年代別では70代の透析患者の割合が非常に多く、令和3年度は、60代の新規の方が多いです。透析の原因疾患としては、35%くらいの方が、糖尿病が原因疾患で、透析になられています。透析患者の受診している医療機関の状況は、町内の医療機関を受診している割合は22%で、最も多いのは札幌市内の35.6%となっております。江別市内の医療機関で、バスで送迎を行っている医療機関があり、江別市の医療機関の利用が、令和3年度非常に多くなっています。

続きまして、糖尿病性腎症重症化予防に関わる取組みとして、令和2年の実績をまとめています。これは、6ヶ月間支援を行い、保健指導を行った状況について、糖尿病連携手帳に記載して、ご本人が受診する際に医療機関の先生に見ていただきながら、連携を行っております。参加状況、対象者としては、①②の記載のとおりで、当別町では、HbA1cや血糖値の有所見者が、特定健診の受診者が多いので、このような事業を行っています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、対象者数が例年より少なくなっていました。ただ、保健指導率だけは下がらずに行ったので、対象者のうちの8割以上の方には、初回の面接を行い、12名の方が事業に実際に参加しました。事業終了後のデータは、12名のうちデータが揃ったのが8名で、6ヶ月間支援を行うと、その期間は数値が改善する方が多いですが、支援が終わると、数値が戻ってしまう方も多い状況です。

実施のまとめとしては、令和2年度は受診者が少なかったため、参加者数も例年の半分程度に留まりました。事業参加者に対して、面接や電話等の支援は、8割以上実施できました。ただ、例年であれば、支援を行って、受診をすぐしていただく方も多かったのですが、コロナ禍ということで、受診された方が、4割程度と低くなっており、やはりコロナの影響もあって、中々治療につながりづらかったのかなと考えております。また、事業参加者への保健指導は、医療機関の先生から実際に、保健指導の情報をいた

だくことで、非常に連携して行うことができたと感じております。また、6ヶ月間は支援をしているとやる気がつながるのですが、その際に病院に受診していても、自分がどこの数値が悪いのかですとか、HbA1cという数値をみて、糖尿病と判断するということも、治療中の方でもあまり意識されていない方が多いので、検査を受けているのであれば、この数値をしっかりと見て、下がるためには、どうしたら良いのかというのをしっかりとこれからも伝えていきたいと思っております。

○奥村委員長

続きまして、北海道国保医療課から報告をお願いします。

○北海道保健福祉部健康安全局国保医療課 大森係長

まず、資料4-3をご覧ください。市町村における取組状況につきまして報告いたします。令和3年度における各市町村の取組状況を調査しておりまして、179市町村中159市町村において重症化予防の取組を進めております。後期高齢者においても87市町村の取組が実施されており、取り組む予定なしというのは、残りわずかというところまで減っています。取り組むことができない理由につきましては、庁内共有ができていない、マンパワーが非常に不足してできないなど記載されています。達成度合につきましては、国保の運営方針に定める目標値を突破して約88%の市町村で実施している状況です。市町村の事業実施にあたって困っている内容について、最も多かったのは、コロナ禍も反映して、マンパワー不足というのが非常に多かったです。また、かかりつけ医、医療機関の本事業の考え方であったり、コントロール不良者への介入が困難などです。内容については、医療機関で取り組みへの意欲、理解に温度差があるため、調整が困難や町外医療機関との調整が難しいという意見や新型コロナウイルス感染症対応のため、かかりつけ医の業務が多忙であり、連携が難しいといった声もありました。また、課題としては、対象者が医療機関の医師から、検査値について問題ないと言われることもあり、事業参加の動機付けが難しい場合もあったと伺っています。こういった背景を踏まえながら、北海道としては、糖尿病対策推進会議の方に市町村等からの取組に係る相談や研修会の講師派遣依頼等があった場合については、御協力をいただこうお願いしているところです。令和4年度は、糖尿病性腎症重症化予防プログラム策定支援や糖尿病性腎症重症化予防対策アドバイザー派遣事業を実施しています。令和4年度の取組成果といたしましては、渡島保健所にアドバイザー派遣し、圏域におけるプログラム策定に至ったところです。資料4-4に関しては、後ほどご確認いただければと思います。

資料4-5については、当課で実施している令和4年度特定健康診査受診率向上事業についてです。重症化予防の取組を進めるにあたっては、市町村の方で、対象者の把握をすることが、非常に大事になっています。最近、国保中央会において、令和3年度の特定健診受診率のとりまとめがありました。令和3年度は、令和2年度と比較して、0.9ポイント向上し27.9%でした。健診受診率向上しているのは、市町村の皆様のおかげによって、増えていると認識していますが、全国と比較した時に、これまで44~46位でしたが、令和3年度全国最下位となってしまいました。これについては、令和3年度においても新型コロナウイルス感染症の影響が非常に強く、特に対象者で一番多い札幌市において、集団健診を中止してワクチン接種会場に切り替えたり、様々なコロナ対策実施したため、他県に比べて、伸びが鈍ってしまったと分析しています。今後については、コロナも落ち着いてくることから、各市町村で特定健診受診率を伸ばせるように北海道としても支援をしていければと考えています。特に、みなし健診につきまして、安孫子委員に多大なるご支援いただきまして、モデル事業を令和4年度で完結したところです。参加市町村の増加や参加医療機関の負担を減らすため、様々な工夫を取り入れ、令和5年度から北海道国民健康保険団体連合会の協力をいただきながら、全道で希望する市町村に参加いただき、進めていきたいと思っております。具体的なお案内等に関しましては、今後、北海道国民健康保険団体連合会と調整して、関係する団体の方に周知を図っていきたいと考えています。実際、このモデル事業参加い

ただいま市町村につきまして、令和3年度の受診率は、非常に良い傾向が出てきており、しっかりと取り組むことは、糖尿病性腎症重症化予防のためにも大事な要素になってくると考えております。

受診率向上対策としては、北海道では、薬局を活用した受診勧奨を実施しています。令和4年度は、札幌市、北見市、岩見沢市といった特定健診対象者数が1万人を超える市の中で、受診率が低い3市に協力いただき、参加薬局を募って実施したところです。薬剤師会からは、今後、この取組について、全道で協力いただける薬局に、任意でどんどん取り組んでいただきたいと言っていたところ、非常に心強い取組と思っています。並行して、ラジオ及びWEBによる広報も引き続き実施しています。WEBによる広報は、非常に費用対効果が良いのと、対象者に届きやすいため、実施しております。ラジオに関しても、ラジオパーソナリティーの顔を打ち出した広報をすることによって、よりリスナーにとって傾聴しやすい環境を整える広報を継続しているところです。

○奥村委員長

ただいまの報告事項につきまして、委員の方から質問・ご意見等ありましたらお願いします。

○西尾委員（北海道大学病院）

以前、病院でみなし健診をやってもらいたいというところで活動しましたが、病院の事務的負担が非常に大きく、中々できなかった経緯があるのですが、みなし健診を進めるために、どのような対策をされたか、わかれば教えていただきたいです。

○安孫子委員（旭川赤十字病院）

旭川赤十字病院で始める時には、事務部門（会計課や医事課）との調整をしたところです。市の保健師と、どういう風にデータを市に送るか、そこのやりとりをどうするか、実際の実務にかかる経費をどうするか等を話し合うことは最初に少しありました。実際に回ってしまうと、簡単で、大体どのくらいの人数がいるかはレセプトからわかるので、どのくらいの人数が行くか、最初のうちは何月に何人行くかを連絡いただいて、病院も待てる体制にしました。対象者には、市から「あなたは、旭川赤十字病院に受診しているので、そこでデータ受領をできますので、健診を受けてください。」といった内容の葉書がいき、患者は、それさえ病院に持って行けばデータ受領できるようになっています。あと、病院で用意したのは、健診の内容が全部書いてある紙1枚です。我々が患者を診る時に意外と抜けるのが腹囲で、1個でも抜けると健診としてみなされないのです、身長、体重とその日の血圧、食前か食後かを書けば、後はデータをコンピューターから出してもらおう。そこは、事務の方をお願いします。最初だけ、市と病院のどういう風な取り決めをするかということだけ、少し時間がかかるとは思いますが、大きな負担にはならないと思いますので、実際にやっている旭川市などに聞いていただいて、同じようなアプローチをしていただけると、もしかしたら上手くいくかもしれないと思います。他の地域でもできることではないかと思っております。

4 閉会

○奥村委員長

それでは、事務局につきましては、ただいまの各委員からの意見を踏まえ、事業を進めてください。予定の議事は以上ですが、全体を通して何かございませんか。特にご発言がなければこれで、議事については終了いたします。議事の進行について、御協力いただき、ありがとうございました。

○事務局

奥村委員長、議事の進行ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、ご協力ありがとうございました。皆様からいただきましたご意見等も参考にしながら、今後の本会議での取組について、検討していきたいと思っております。本会議の今後の開催は、新年度に実施を予定しており、それに伴

い日程調整等させていただきたいと考えております。それでは、これで本日の慢性腎臓病対策連絡会議を終了いたします。